

手稲の風と共に

平成24年12月7日発行 北海道札幌手稲高等学校

見学旅行＜2年次＞

11月1日から5日まで奈良・京都、広島を見学しました。初日の10時集合には1人の遅刻者もなく出発。最初の清水寺には京都市内が渋滞にあい遅れて到着。日も翳って来て大急ぎで階段を駆け上がりました（写真右）2日目は奈良。



法隆寺に着くころには天気が良くなり、日ごろの真面目な生活が報われました。3日目は自主研修。4日目は広島。原爆ドームを前から、そして裏へまわって間近からも見ました。この場所だからこそ、ここに来たからこそ感じられる思いがあった事でしょう。最終日は、カラフルな傘が広がる雨の厳島神社見学。全日程を終了し、フェリー、広島空港、羽田で乗り継ぎ新千歳に帰着。発熱など、体調を崩す生徒が若干出ましたが、大きなトラブルもなく、「人を知る」「学ぶ」「創る」という目的を達成し、両手一杯のお土産とは別の大きなお土産をそれぞれの心の中に持って帰ってきました。

出発前の10月18日（木）には、北海道被爆者協会会長越智晴子氏を講師にお招きして被爆者体験講演会を開催し、貴重な体験談を伺いました。

帰着して一首「広がった 修学旅行で 心の輪」詠みました。

学校説明会

8月25日には昨年の800名を大きく上回る1000名の中学生と保護者が参加してくださいました。

＜中学生の感想＞

- 厳しそうなイメージだったけど、明るくて部活動も活発で楽しそう
- 行事や生徒会活動が、おもしろそう
- 単位制とか学校の特色、行事がわかりやすかった
- 学校祭が、楽しみ



2年ぶりのマラソン大会

昨年は雨で中止となり、2年ぶりの開催。10月7日、晴天の中、前田森林公園を駆け抜けました。（写真）

3年の「継続は力なり賞」（3年間上位入賞者）は、男子3名、女子4名が受賞しました。

団体優勝は、2年7組です。



インターンシップ ＜1年次＞



10月25日に海上保安庁（写真左）はじめ75事業所にお世話になりました。事前にエントリーシートの作成や実習マナーの学習をし、事後には発表会（写真下）を行い将来のキャリアを考える良い機会となりました。

＜生徒の感想＞

- 仕事はいかにクライアントの目線になり目的を理解するかが大切。また、金銭的にはシビア。
- 仕事は大変というイメージが強くあったが、お客さんとのコミュニケーションを通して楽しいこともあることがわかった。



第37回 手稲校祭

7月6日、7日に開催しました。テーマは「翠嵐」
(緑に包まれた山の気配)

開祭式の後、各クラスの趣向を凝らしたパフォーマンスがステージ発表されました。生徒玄関上の壁面には各クラスの「垂れ幕」(写真)が下がり、玄関の欄間には美しいステンドグラスが飾られ、最後は、例年以上に美しく豪華なフィナーレの花火となりました。

総合優勝は、3年5組。



ダメ 絶対 薬物乱用防止教室

10月11日、講師に北海道薬科大学教授丹保好子氏をお招きして開催。

薬物が心身の健康に与える深刻な影響の他、「断ることは難しいけれど、普段からピアサポートを使い友達とどう断るか話しておくことが大事」など実践的なお話もして頂きました。

感想は「薬物の歴史が説明されたのは、これまでこの教室では聞いたことがなかったので、新鮮でした」「化学式を示しながら薬剤師の観点での内容は、なるほどなあと思いました。途中、ちょっとギャグなど入れてくれると視界がブラックにならずに助かりますが・・・」生徒にとっては、関心を持てる内容でした。

PTA活動

10月30日、PTAの文化教室を本校教諭の宮田敦生氏を講師に皮革工芸に挑戦。24名の方が参加しペンケースや免許証入れの制作を楽しみました。出来上がりはとても素人とは思えない作品でした。



学校関係者評価委員会 開催

10月22日第1回学校関係者評価委員会を開催。

学校評議員、PTA役員から構成された15名の委員が、学習指導、キャリア教育、生徒指導の3つのグループに分かれ、熟議。生徒指導グループでは、規則は生徒にどのように受け止められているか、学校ばかりではなく地域にはどのような働きかけができるか、地域からはどのような指摘があるかなど課題を書きだし、「自分だったらこうしたい」「みんなでこうしよう」という解決策を考え課題を共有しました。この結果を踏まえ、課題解決の方策検討に入ります。

ステップアッププログラム

道教委の指定事業を受け、コミュニケーション力の育成に取り組んでいます。

7月 生徒理解支援ツール「ほっと」の実施

9月 保護者にスクールカウンセラー朝日先生からコミュニケーションに関する講演会

10月 「ほっと」活用に関する研修会(近隣校6校と共に)

11月 ロングホームルーム
「ほっと」の結果からコミュニケーションの中でも「断る」ことについてトレーニング(写真)



11月 教職員の研修

札幌医科大学の吉野教授を講師に講演「若者の易傷性とその周辺について」と演習(写真下)

<参加者の感想>

「傷つきやすい若者」の症例を中心に「新型うつ」の特徴、対応の型などの概説の後に、クライアント、カウンセラー、観察者に役割分担してのロール・プレイを行った。言葉を発するのは不思議なもので、言葉に寄り添うように感情が起ってくる。寄り添うことを主眼とするカウンセラーの姿勢に通じ、良いトレーニングになった。

